

～子どもの育ちを応援する情報を発信～

のびのび通信



1
2021.1

詳しくは、
のびのび通信12
月号で紹介してい
ます



NO.9 甲賀市発達支援課 Tel : 0748-69-2178

2021年が始まりました。コロナ禍ではありますが、お子さんの笑顔がたくさん見られるよう楽しいことを見つけていきたいですね。

今回ののびのび通信では、発達に合わせたいろいろなボール遊びを紹介する中で、前回お伝えした「インリアル」についても触れたいと思います。

インリアル 7つのかかり方～ことばがけのヒント～

- | | |
|--------------------------|-------------|
| 1. 子どもの行動をまねてみる | (ミラリング) |
| 2. 子どもの発声、ことばをまねてみる | (モニタリング) |
| 3. 子どもの行動や気持ちをことばで言ってあげる | (パラレルトーク) |
| 4. 大人が自分の行動や気持ちを口にする | (セルフトーク) |
| 5. 間違えたことばを否定しないでさりげなく直す | (リフレクション) |
| 6. 子どものことばを広げて返す | (エクспанション) |
| 7. 子どもに新しいことばのモデルを示す | (モデリング) |

ボールの感触を楽しむ

まだ自分でボールを扱えない幼いお子さんも、触ったり、なめたりしながらボールを感じています。ふわふわ、トゲトゲなどいろんな感触があると面白いですね。子どもがボールをほとんど落としたりしたら同じようにしてみる（ミラリング）、機嫌のよい発声があれば、同じように言う（モニタリング）など、子どもの行動にตอบสนองするように関わってみてください。



ボールぽとん

ボールを自分で扱えるようになったら、段ボールなどに穴をあけた物を用意してあげると、ボール入れが楽しめます。子どもの動きに合わせて「ぽとん」とことばをかけることはパラレルトークといえます。

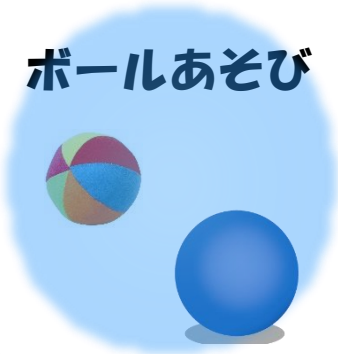


ボールのやりとり

自分・ボール・相手の3者が意識できるようになると（三項関係といえます）相手とボールのやりとりができるようになります。「次はお母さんが転がすよ。ころころ」とことばをかけることはセルフトークにあたります。



ボールあそび



ポウリング

ペットボトルのポウリング遊びです。ボールを転がす→ペットボトルが倒れる、というように結果がわかりやすいので、目的をもって遊ぶことができます。また、自分・ボールの二つの関係から、なかなか相手に関心が向きにくいお子さんも、倒れたペットボトルを大人に立ててもらうことで、相手に期待したりと、相手を意識する姿が見られるかもしれません。



紙コップと坂道で
こんな遊びも

記録にチャレンジ

のびのび通信6月号でお伝えしたように、幼児期には【自己肯定感】が大切です。“やってみよう”“できてうれしい”という経験を積み重ねていきたいですね。ボールを10回つく、ボールを真上に投げる間に3回手をたたく、など遊びの中でいろいろチャレンジしてみてください。『ちょっとがんばればクリアできる』目標を設定することが大切です。



新聞紙ボール

新聞紙をちぎったり丸めたりしてテープで貼り、自分でボールを作ってみましょう。手先を使う経験にもなります。少し難しいですが、新聞紙で作ったバットで新聞紙ボールを打つのもよいですね。遊びの中で、子どもが「ボールできた」と言った時に、「大きなボールができたね」とことばを広げて返すことがエクспанションです。



ルールのあるボール遊び

成長に応じて、遊びにルールを取り入れていくとより盛り上がります。的あてや、チームに分かれての風船バレーなどは家庭でも楽しめると思います。ルールのある遊びを通して【順番を守る】【勝ち負け】などの経験をし、社会性を身につけていきます。「次、交代して」など言うことばのモデルを示すことをモデリングといえます。



12月号で紹介した風船ボールを使ってもいいですね。